

AGI 東アジア12カ国・地域経済動向

東アジア 12カ国・地域の経済動向を、主要統計のグラフとアジア成長研究所（AGI）の研究員による解説とともにお知らせいたします。（2020年第4四半期）

グラフの読み方

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率 一国経済の基本的な経済動向を読む

- 実質 GDP 国内総生産（GDP：Gross Domestic Product）は、国内で生み出された財・サービスの付加価値の総計である。GDPには名目値と実質値があり、そのうち実質 GDP の伸び率は経済成長を測る代表的な指数である。
- GDP デフレータ 名目 GDP を実質 GDP で除した値として計算される。その伸び率は、名目 GDP の価格上昇分を表し、インフレの程度を知ることができる。GDP デフレータのプラスの伸び率が高いほどインフレ傾向にあり、マイナスの伸び率が高いほどデフレ傾向にある。

図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率 政府の金融政策と景気の間を読む

- 貨幣供給量 経済全体に流通している貨幣の総量。通常、金融政策は中央銀行が貸出や公定歩合操作、債券売買や外為市場介入等を行うことによって実施される。金融政策により貨幣供給量が増加すれば、短期的には経済が拡大するが、長期的には貨幣価値が下がるので物価の上昇を招きやすい。M1とは現金の流通額と預金（当座預金、普通預金等）を合わせたもので、M2はM1に定期預金、外貨預金等を合わせたものである。
- 国内信用 銀行部門の貸出等（信用）の総額。政府向け信用と民間向け信用に大別される。政府向け信用は主に銀行の国債保有残高、民間向け信用は主に企業向け貸出額にあたる。この伸び率が高ければ、国内市場に循環する資金が増加したことを示す。なお、一部の国では国内債権（Domestic Claims）を使用している。

図3：消費者物価指数、株価指数、為替レート指数 インフレと景気動向を読む

- 消費者物価指数 消費者が購入する財・サービスの価格を加重平均したもの。インフレの程度を測る代表的な指数である。指数が上昇すればインフレ傾向にあり、下落すればデフレ傾向にある。
- 株価指数 株式市場の上場銘柄全体の値動きを表す指標である。景気（および人々の期待）の動向を知ることができる。指数の継続的な上昇は好況を、継続的な下降は不況を示唆する。
- 為替レート指数 自国通貨と米ドルとの交換レート（ドル/自国通貨）。指数の上昇は自国通貨高、下落は自国通貨安を示す。自国通貨高は輸入価格の下落により、輸入がしやすくなる一方、対外的に見て、輸出価格が上昇するので輸出が難しくなる。

図4：輸出額と輸入額 対外経済部門の動向を読む

- 輸出額 輸出数量×輸出価格。輸出は外貨獲得の重要な手段である。
- 輸入額 輸入数量×輸入価格。資本財や中間財の輸入は国内の生産能力を増大させ、消費財の輸入は消費者の満足度を高める。



〒803-0814 北九州市小倉北区大手町 11-4 / TEL : 093-583-6202 / URL : <http://www.agi.or.jp>

日本の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率
(前年同月比, %)

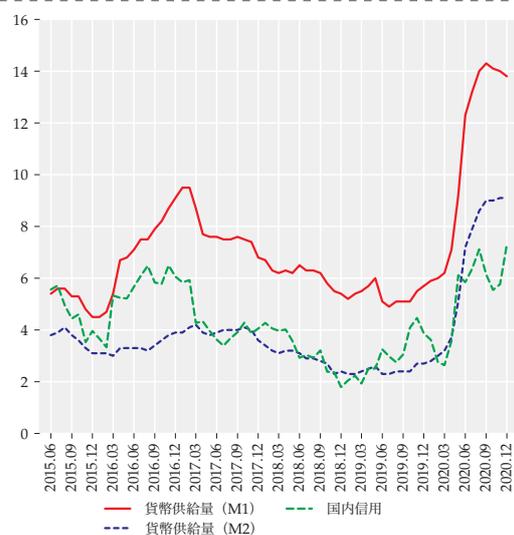


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数
(2015年=100)

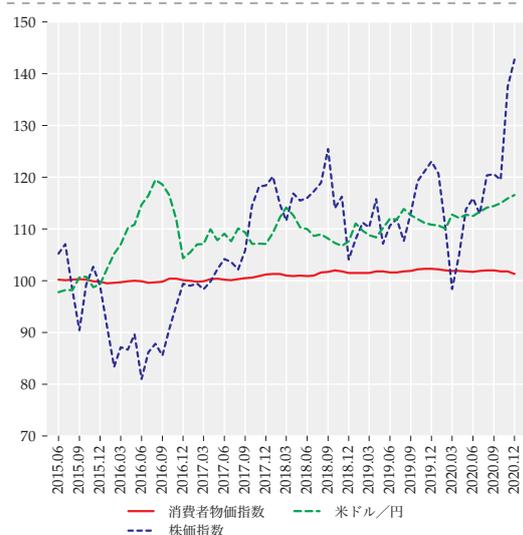
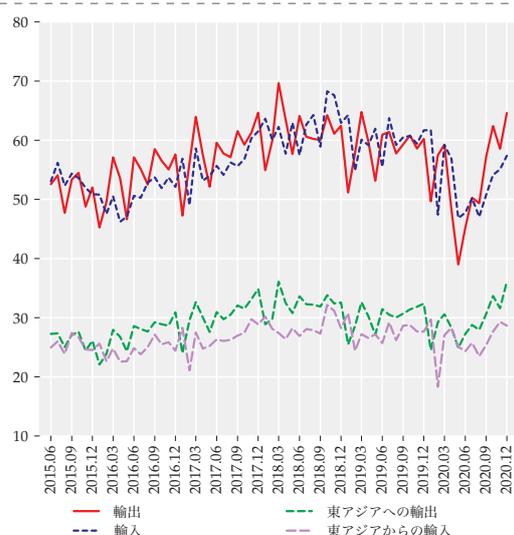


図4：輸出額と輸入額
(10億米ドル)



日本経済の動向 (2020年第4四半期)

2020年第4四半期の実質 GDP の伸び率は -1.19 % となり (前年同期比, 速報値), 前期の -5.79 % からは改善したものの, 5 四半期連続でのマイナス成長となった, 新型コロナウイルス感染が緩やかに拡大するなか, 旅行や外食の費用を一部補助する Go To キャンペーンが実施され, 第4四半期の民間最終消費支出は -2.39 % となり前期 (-7.32 %) から改善した。また, 政府最終消費と公的固定資本形成はそれぞれ 4.77 % と 4.71 % 増加し, 前期 (3.25 % および 3.83 %) よりも加速している。財貨・サービス輸出は -6.23 % となり前期 (-15.42 %) より改善している (いずれも前年同期比)。このようななか株価は上昇を続け, 2021年2月には日経平均株価が30年ぶりに3万円の大台を回復した。しかし2021年1月には新型コロナウイルスの1日の感染者数が8,000人近くに達し, 11都府県に緊急事態宣言が発出される事態となった。感染拡大防止と社会経済活動の両立という困難な課題に対して, 政府は難しい舵取りを強いられている。(田村一軌)

中国の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率
(前年同期比, %)

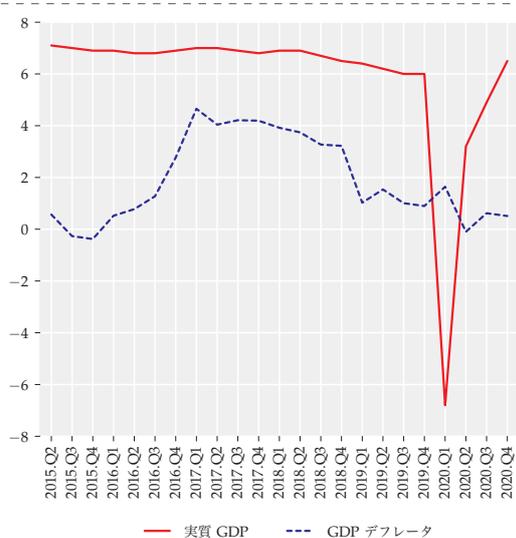


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率
(前年同月比, %)

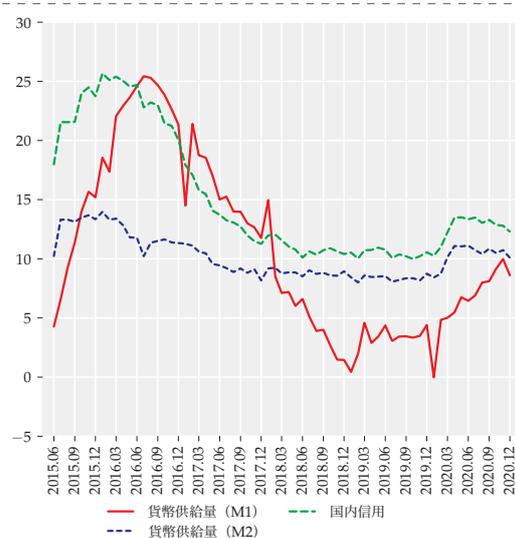
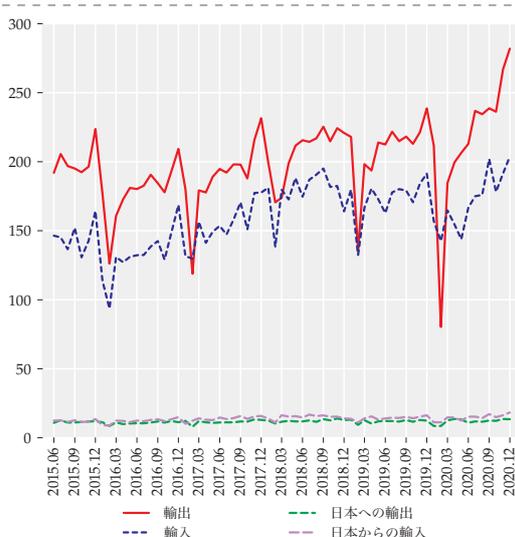


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数
(2015年=100)



図4：輸出額と輸入額
(10億米ドル)



中国経済の動向 (2020年第4四半期)

中国では、昨年3月中旬以降新型コロナウイルスの感染拡大が抑えられ、その後投資・生産・消費・輸出が徐々に回復した。国家統計局の発表によると、2020年第4四半期の実質GDPは前年同期比で6.5%増加した。産業別の成長率でみると、第1次産業は4.1%、第2次産業は6.8%、第3次産業は6.7%になっている。一方、第4四半期の実質GDP成長率に対する支出面の構成別貢献率でみると、国内最終消費は39.6%、資本形成は38.3%、純輸出は22.1%になっている。また、2020年通年の実質GDP成長率は前年同期比2.3%増となった。2019年の6.1%から大きく下落したものの、主要国の中で唯一プラス成長を維持した国である。3月5日、中国の第13期全国人民代表大会（全人代、国会に相当）の第4回会議が北京で開催された。李克強総理は所信表明にあたる『政府工作報告』で、2021年の実質GDP成長率目標を「6%以上」と設定した。

(孫 暁男, 戴 二彪)

香港の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率
(前年同月比, %)

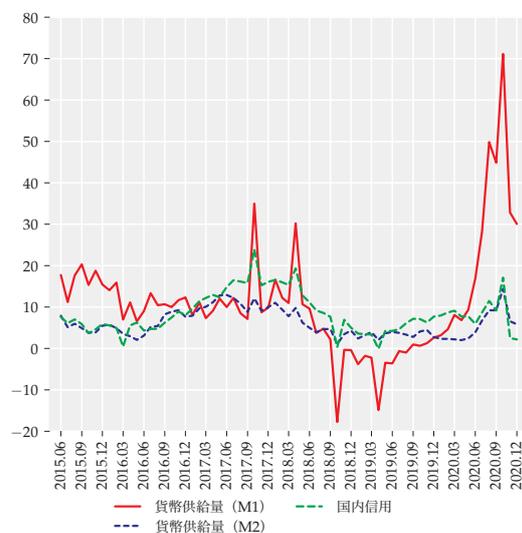


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数
(2015年=100)

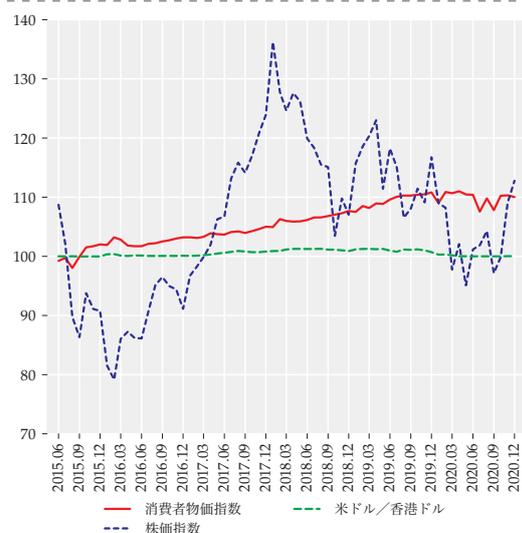


図4：輸出額と輸入額
(10億米ドル)



香港経済の動向 (2020年第4四半期)

2020年に香港経済は極めて厳しい試練を経験した。2019年下半年からすでに景気後退に入ったが、新型コロナウイルスの大流行は香港経済にさらに大きな打撃を与え、2020年上半期の実質GDPは前年同期比で9.0%も縮小した。2020年下半年では、中国本土をはじめとする外部環境の改善によって、香港経済も幾分改善し、第3と第4四半期の実質GDPの下落率はそれぞれ3.6%と3.0%に緩和した。にもかかわらず、2020年通年の実質GDPは対前年比で6.1%縮小し、香港統計史上最も深刻な年となった。2019年の香港経済のマイナス成長は、大規模デモによる都市機能の低下の影響が大きかったが、2020年の経済後退は、主に新型コロナの影響によるものである。一方、世界主要国におけるワクチン接種の全面実施に伴い、コロナによる経済活動へのマイナス影響は徐々に小さくなると期待され、香港政府は、2021年のGDP成長率は3.5~5.5%になると予測している。

(孫 暁男, 戴 二彪)

韓国の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率
(前年同月比, %)

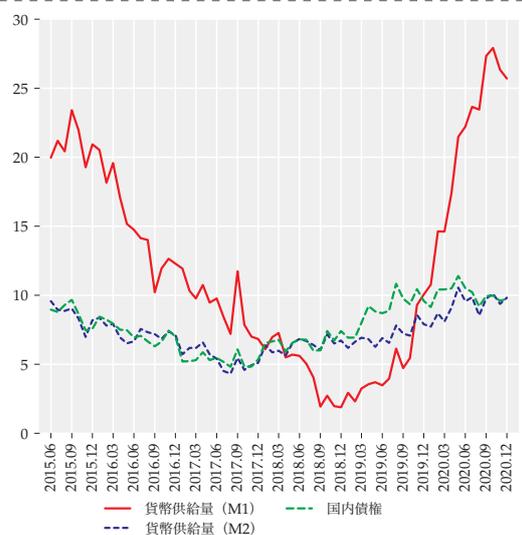


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数
(2015年=100)

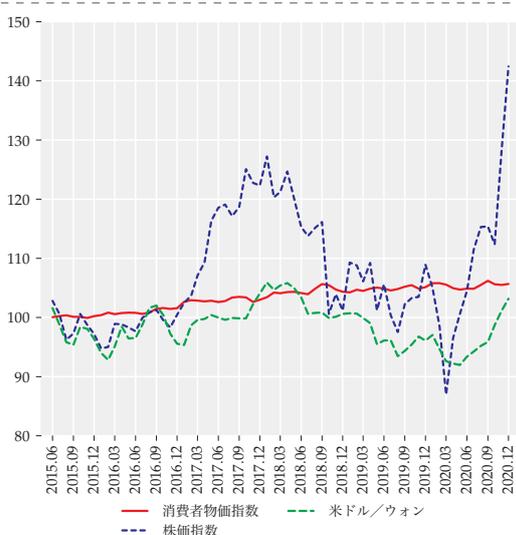
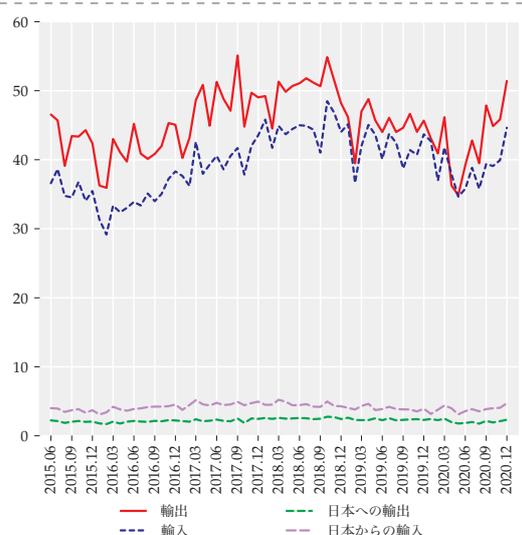


図4：輸出額と輸入額
(10億米ドル)



韓国経済の動向 (2020年第4四半期)

韓国の2020年第4四半期の実質 GDP の伸び率 (前年同期比) は -1.22 % となり、前期の -1.13 % からマイナス成長が悪化している。結果、通年では -0.96 % のマイナス成長となる見込みである。12 月末の株価指数は 2,873.47、為替レートは 1 米ドル = 1,095.13 ウォンであった。これは、9 月末と比較して、株価は急上昇し、ウォン高が継続されていることを示す (2,327.89, 1,178.8 ウォン)。中国経済が回復した結果、輸出が 4.23 % と前期の -3.41 % からプラス成長に転じた。また、輸入のマイナス成長も前期の -8.75 % から -1.71 % まで改善した。政策金利を段階的に過去最低の 0.50 % に引き下げ、金融緩和を図った結果、M1 の伸びが 20 % を超えるようになり、「カネ余り」による不動産価格の上昇と家計債務の拡大が懸念される。しかも、景気対策として大掛かりな財政出動も実施している。政府は、新型コロナウイルスの影響の反動として、2021 年は 3 % 前後の成長を見込んでいるようだが、感染が収束しない中、決して安心できる状況ではない。(坂本 博)

台湾の経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率
(前年同月比, %)

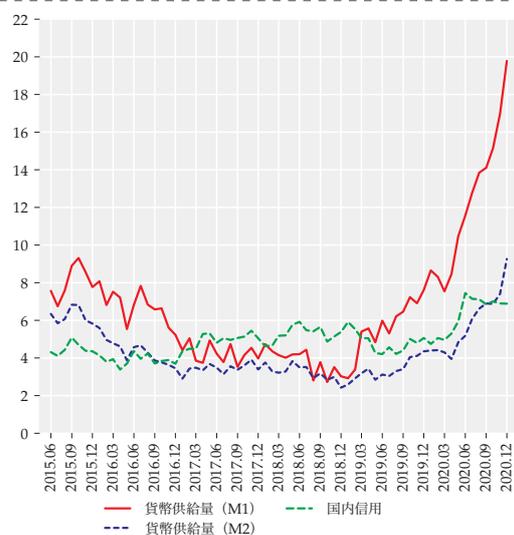


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数
(2015年=100)

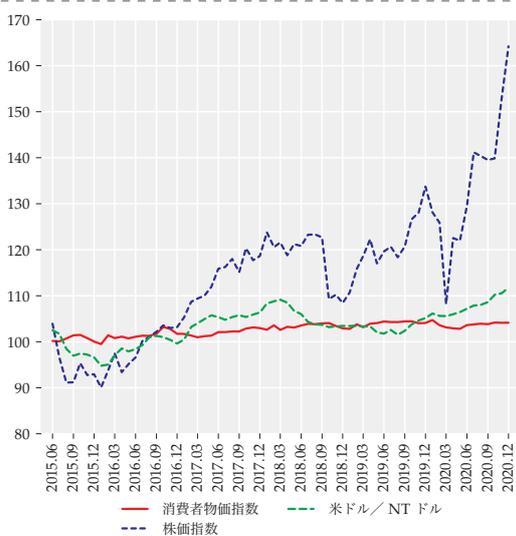
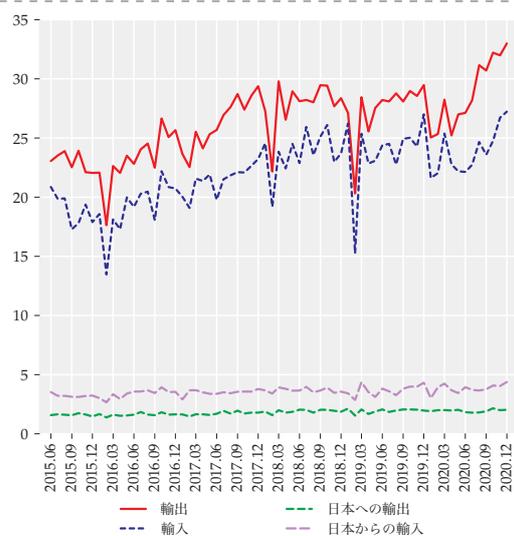


図4：輸出額と輸入額
(10億米ドル)



台湾経済の動向 (2020年第4四半期)

台湾の経済成長率は、2020年第1～第4四半期の数値は各々、2.51%、0.35%、4.26%、5.09%、通年で3.11%であった(主計總處2021年2月20日付資料)。コロナ禍のなか比較的良好な成績を収めた理由は、国内製造業者が投資の手を緩めず生産能力を拡大してきたこと、サプライチェーンの現地化が整いつつあること、商品輸出が増加したこと、民間消費の衰退が軽微であったことである。国際貿易では、2020年全年で、輸出額は3,453億米ドル、輸入額は2,865億米ドルで、対前年比の伸び率は各々、4.9%と0.3%であった。輸出品目別では、主要な品目である電子部品が20.5%(うち集積回路は22.1%)、情報通信機器が15.4%と大きく伸びた。とりわけ集積回路の輸出は1,225億米ドルで全輸出額の35.5%を占め、過去最高を記録した。集積回路の輸出先別の比率は、中国大陸(含香港)61.3%、ASEAN 10カ国19.9%、日本7.6%、韓国7.1%、その他4.1%であった。(岸本千佳司)

インドネシアの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率
(前年同月比, %)



図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数
(2015年=100)

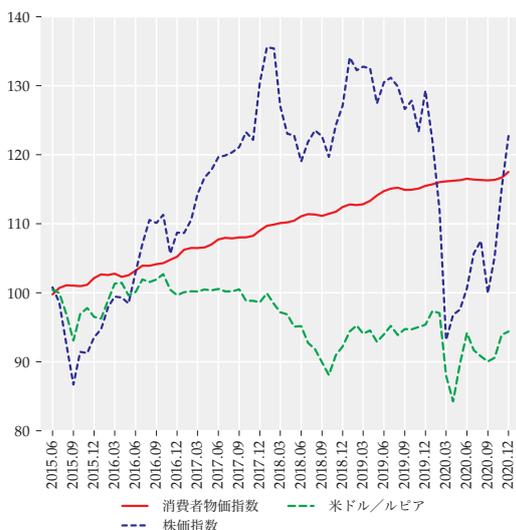
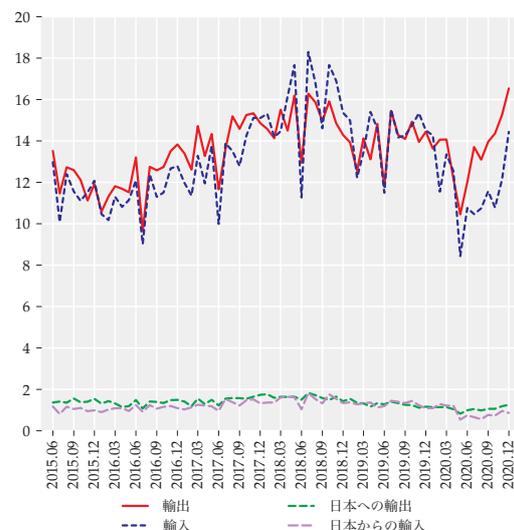


図4：輸出額と輸入額
(10億米ドル)



インドネシア経済の動向 (2020年第4四半期)

インドネシアの2020年第4四半期における実質 GDP の伸び率 (前年同期比) は -2.19% となり、前期の -3.49% よりは回復したものの、マイナス成長が続いている。ここ数年 5% 前後の成長を維持してきたが、2020年通年では、 -2.07% とマイナスに転じる見込みである。9月末に1米ドル=約14,800ルピアであった為替は、12月末には約14,200ルピアに下落した。一方、9月末に4,870.04ポイントであった株価は、12月末には5,979.07ポイントと急上昇した。また、金融緩和により、図2における金融指標がいずれも 10% を超えるようになったが、2021年2月18日に政策金利を 3.75% から 3.50% に引き下げた。新型コロナウイルスの新規感染者の増加傾向は依然変わらず、現時点で ASEAN 内で最大の感染者数となっている。2021年1月13日にワクチンの接種が始まったが、集団免疫を獲得するためには、国民の7割 (約1億8,000万人) の接種が必要であると政府は考えており、長い道のりが予想される。(坂本 博)

マレーシアの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率
(前年同月比, %)

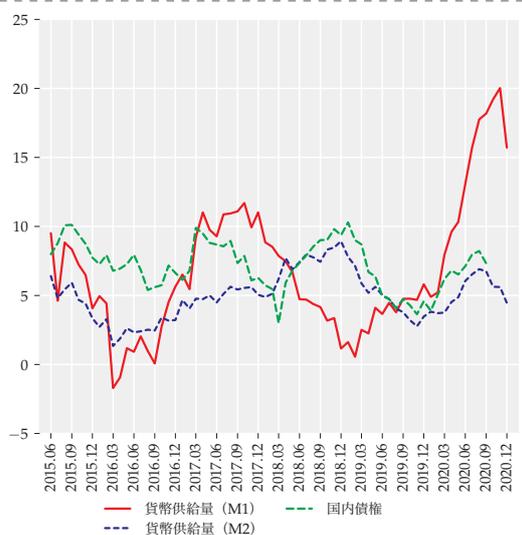
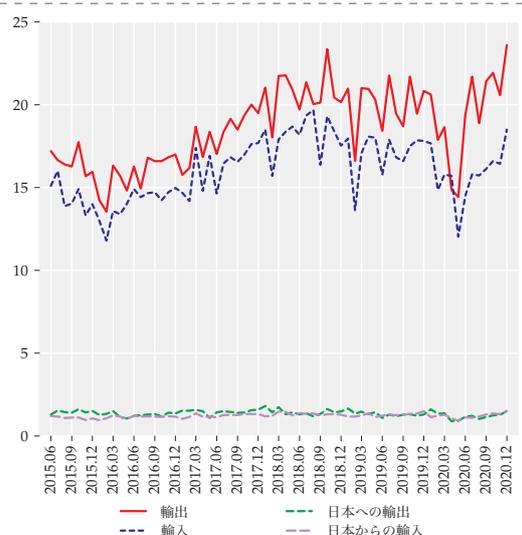


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数
(2015年=100)



図4：輸出額と輸入額
(10億米ドル)



マレーシア経済の動向 (2020年第4四半期)

マレーシアの2020年第4四半期の実質GDPの伸び率は(前年同期比, 以下同じ), -3.45% となり, 前期の -2.62% から悪化した状態でマイナス成長が続いている。新型コロナウイルスの感染拡大により, 活動制限措置が再び強化されたことが要因だと考えられる。需要側では, GDPの半分以上を占める民間消費が前期の -2.1% から -3.4% と低迷し, 政府消費も前期の 6.9% から 2.7% と低下し, 総固定資本形成も前期の -11.6% から -11.9% と悪化した。一方で, 外需は改善されつつあり, 米ドルベースの貿易額は, 輸出が前期の 3.47% から 6.64% と増加し, 輸入は前期の -7.11% から -3.07% とマイナスの幅を縮めた。なお, 通年では -5.59% のマイナス成長になる見込みである。また, 度重なる金融緩和により(政策金利は 1.75% を維持), M1が 20% 近くまで伸びるようになったが, リンギおよび株価は2018年以降, 低下傾向である。他国同様, 新型コロナウイルスの状況次第である。(坂本 博)

フィリピンの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率
(前年同期比, %)

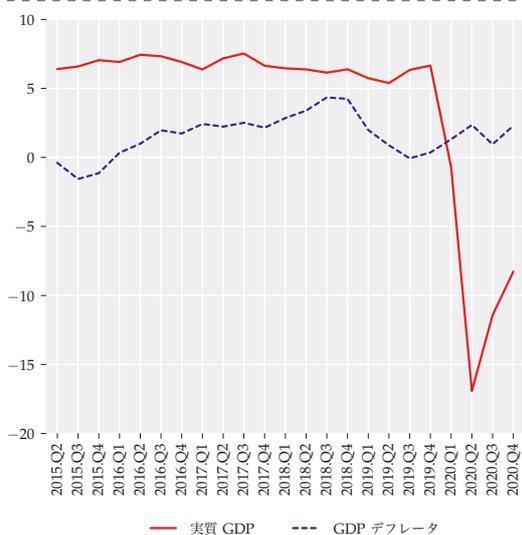


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率
(前年同月比, %)

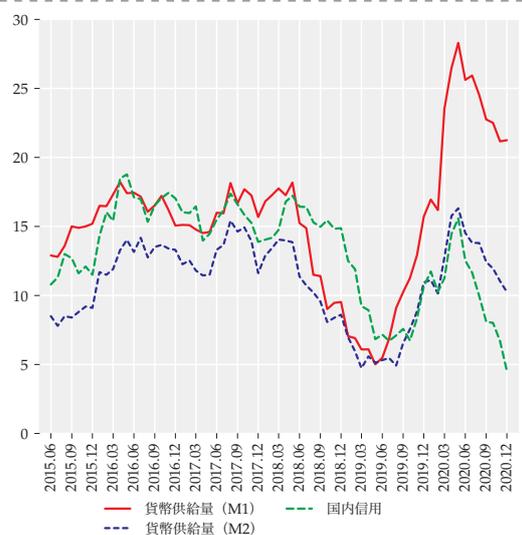


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数
(2015年=100)

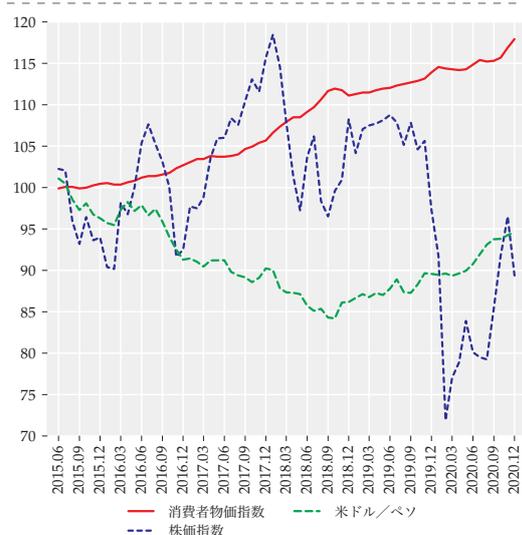


図4：輸出額と輸入額
(10億米ドル)



フィリピン経済の動向 (2020年第4四半期)

2020年のフィリピンの実質 GDP 伸び率は、第1～第4四半期の各々で -0.71%、-16.9%、-11.4%、-8.3%、通年では -9.5%とアジア通貨危機以来22年ぶりのマイナス成長となった。第4四半期の実質 GDP 需要項目別では、前年同期比の伸び率で、政府最終消費支出が4.4%（前期は5.8%）と唯一プラス成長であった以外は、民間最終消費支出は -7.2%（前期は -9.2%）、総固定資本形成は -28.6%（前期は -37.1%）、財・サービスの輸出は -10.5%（前期は -14.4%）、同輸入は -18.8%（前期は -21.5%）と、第3四半期よりは若干の改善がみられたものの依然厳しい状況である。ASEAN 主要5カ国中最も回復が遅れている。主な原因は、非常に厳格なレベルの活動制限措置が長期化し個人消費が低迷したことである。国家経済開発庁は2021年の成長率目標を6.5～7.5%増としたが、コロナ・ワクチンの調達・接種が予定通りいかどうかといった不安材料がある。

(岸本千佳司)

シンガポールの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率
(前年同月比, %)

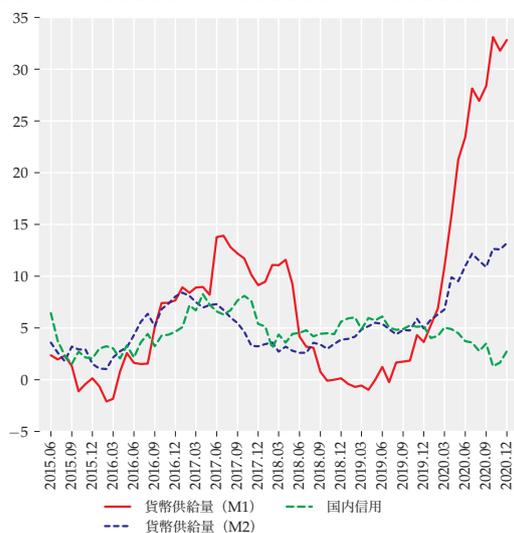


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数
(2015年=100)

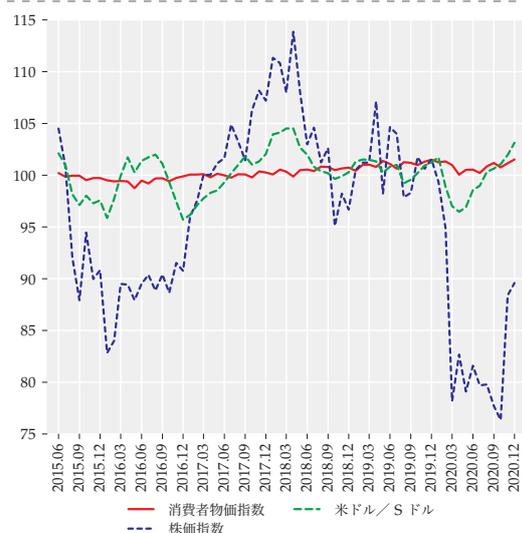
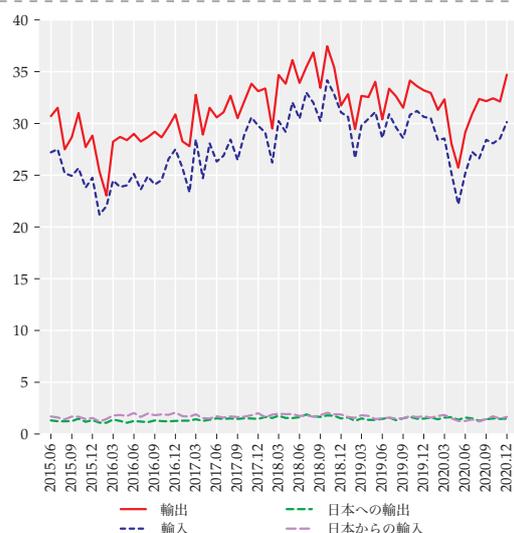


図4：輸出額と輸入額
(10億米ドル)



シンガポール経済の動向 (2020年第4四半期)

2020年第4四半期の実質 GDP の伸び率は前年同期比で -2.39 % となり、第2四半期 (-13.3 %), 第3四半期 (-5.83 %) からは改善したものの、3期連続でのマイナス成長となった。2020年の実質 GDP 成長率は前年比 -5.39 % であった。産業別にみると、製造業が前期 (11.01 %) に引き続き 10.28 % と好調だったほか、GDP の6割以上を占めるサービス業も前期の -8.31 % から -4.68 % へと改善している。特に、卸売業では前期の -5.00 % から 1.80 % へとプラス成長に転じた。社会経済活動を制限する「サーキットブレーカー」は段階的に解除され、12月28日からは最も緩い第3段階に移行している。貿易産業省 (MTI) は、世界における新型コロナウイルスの感染状況および世界経済回復の道筋には不確実性があるとしながらも、輸出向け製造業を中心とした外需産業の経済回復が期待できること、他の産業においても徐々にではあるが状況の改善が期待できることを理由として、2021年通年の実質 GDP 成長率予測を、前年比 4.0~6.0 % としている。(田村一軌)

タイの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率
(前年同期比, %)

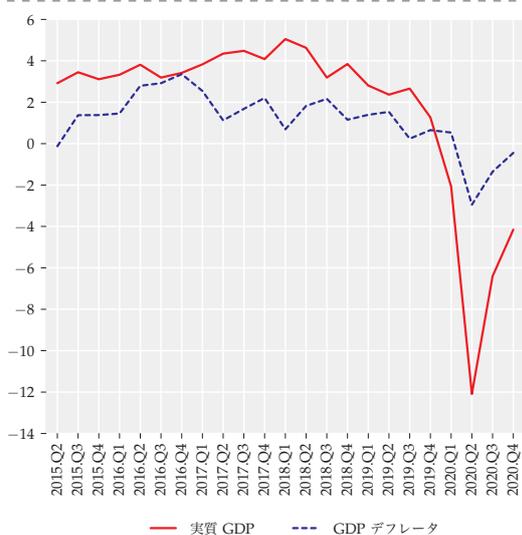


図2：貨幣供給量と国内債権の伸び率
(前年同月比, %)

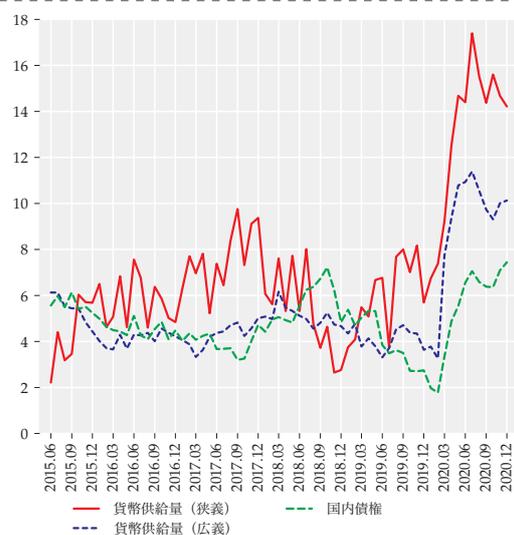
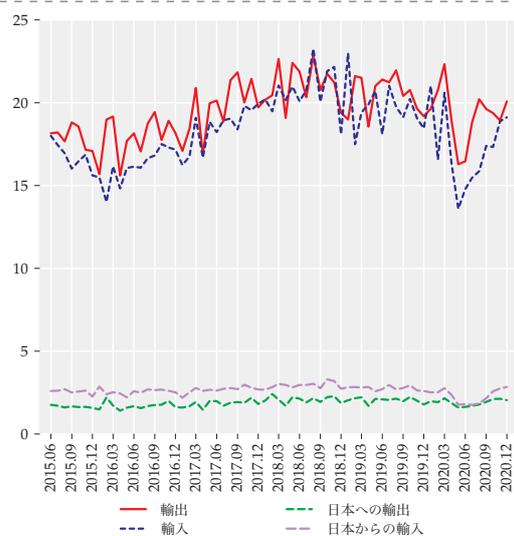


図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数
(2015年=100)



図4：輸出額と輸入額
(10億米ドル)



タイ経済の動向 (2020年第4四半期)

2020年第4四半期の実質 GDP 伸び率は前年同期比で -4.15 %となり、前々期の -12.09 %, 前期の -6.40 %よりは回復したものの、4 四半期連続でのマイナス成長となった。2020 年の実質 GDP 成長率は -6.09 %であった。生産側からみると、GDP の 3 割を占める工業部門が前期の -6.72 %から -4.72 %へと、GDP の 6 割を占めるサービス部門が前期の -7.21 %から -5.95 %へと、それぞれ徐々に改善している。支出側から見ると、GDP の 2 分の 1 を占める財輸出が前期の -7.54 %から -1.46 %へと回復した。一方で、これまで GDP の 2 割弱を占め経済を下支えしてきたサービス輸出は前年同期比 -74.80 %と大きく減少しており、対 GDP 比率も 5 %を下回った。国家経済社会開発委員会は、世界経済と国際貿易の回復、政府の経済刺激政策、国内民間消費の回復が見込まれるとしながら、2021 年の実質 GDP 成長率の予測値を、従前の 3.5~4.5 %から 2.5~3.5 %へと下方修正している。

(田村一軌)

ベトナムの経済指標

図1：実質 GDP の伸び率

(前年同期比, %)

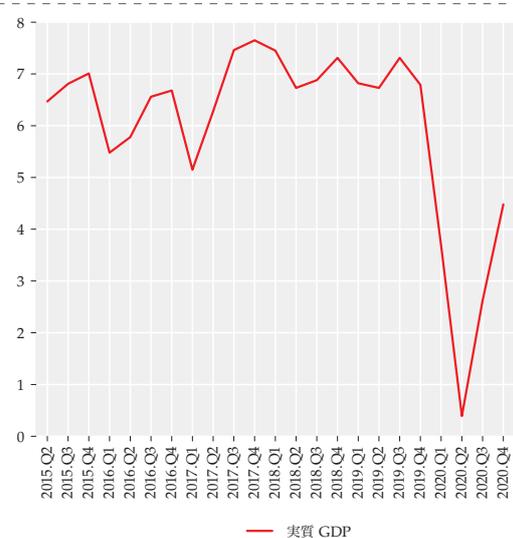


図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率

(前年同月比, %)



図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数

(2015年=100)

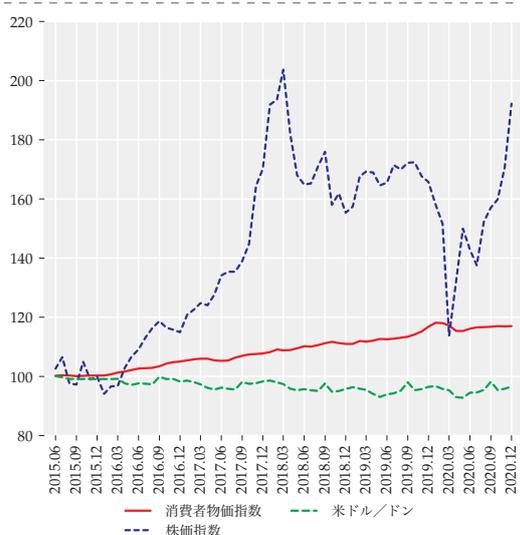


図4：輸出額と輸入額

(10億米ドル)



ベトナム経済の動向 (2020年第4四半期)

2020年第4四半期の実質 GDP 成長率は 4.48 %であった。これは 2020 年の四半期成長率としては最も高く、アジア諸国の中では数少ない高成長である。統計総局 (GSO) によると、農林水産業、工業・建設業、サービス業はそれぞれ 4.69 %増、5.60 %増、4.29 %増であった。卸売・小売業は前年比 5.53 %増で、成長率に 0.61 ポイント寄与した。金融・銀行・保険業は 6.87 %増 (同 0.46 ポイント) となった。COVID-19 の影響で、運輸・倉庫業は 1.88 %減 (同 -0.06 ポイント)、宿泊・飲食サービス業は 14.68 %減 (同 -0.62 ポイント) となった。ベトナム経済は常に COVID-19 の蔓延を食い止めるためのロックダウンの危機にさらされている。他の国とは異なり、ベトナムは企業や家計のための大規模な一律給付・補助を実施していない。また、ベトナムは世界との貿易黒字を維持しているが、対日貿易赤字が続いている。12月の株価指数は 1,100 ポイントを超え、2018年4月以来の高値を記録した。(ティエン・マン・ヴァ)

インドの経済指標

図1：実質 GDP と GDP デフレータの伸び率
(前年同期比, %)



図2：貨幣供給量と国内信用の伸び率
(前年同月比, %)



図3：消費者物価指数, 株価指数, 為替レート指数
(2015年=100)

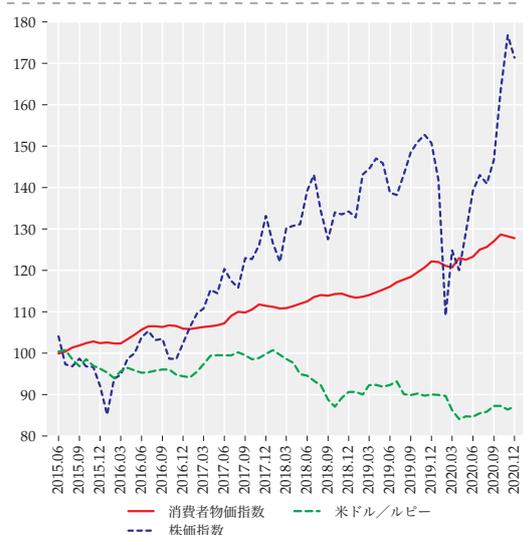
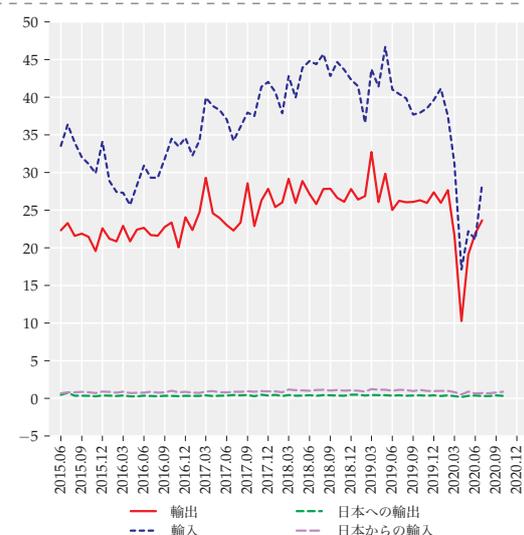


図4：輸出額と輸入額
(10億米ドル)



インド経済の動向 (2020年第4四半期)

2020年第4四半期の実質 GDP 成長率は 0.4 % であり、2 四半期連続のマイナス成長からプラス成長に転じた。これは、新型コロナウイルス対策としてパンデミックを封じ込めるために行われたロックダウンと、その後の回復を反映している。セクター別にみると、電気・ガス・水道・その他の公共サービスセクターの成長率が最も高い 7.3 % であった。一方で、貿易・ホテル・輸送・通信セクターの成長率が最も低い -7.7 % であった。金融・不動産・専門サービスセクターは 6.6 % 増加し、前期の -9.5 % から大きく改善した。2020-21 年の GDP 成長率は、2019-20 年の 4.0 % に比べ -8.0 % に落ち込むと予想されている。ただし政府は、新型コロナウイルス対策としてのロックダウンが経済活動と統計データ収集メカニズムに影響を与えたと述べており、この見積もりは今後大幅に改訂される可能性がある。

(プラモッド・クマール・スール)

図に関するデータの出所および注

日本：

- 図 1 内閣府経済社会総合研究所 (<https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/menu.html>)
- 図 2 日本銀行 (<https://www.stat-search.boj.or.jp>)
- 図 3 消費者物価指数：総務省統計局 (<https://www.stat.go.jp/data/cpi/index.html>)；株価指数：日本経済新聞社，日経平均プロフィール (<https://indexes.nikkei.co.jp/nkave/index/profile?idx=nk225>)；為替レート指数：日本銀行 (<https://www.stat-search.boj.or.jp>)
- 図 4 財務省 (<https://www.customs.go.jp/toukei/suii/html/time.htm>)；東アジアは中国，香港，韓国，台湾，インドネシア，マレーシア，フィリピン，シンガポール，タイ，ベトナムの合計

中国：

- 図 1 China, National Bureau of Statistics, *National Data (Quarterly)* (<http://data.stats.gov.cn/english/easyquery.htm?cn=B01>)
- 図 2, 図 3 China, Statistics and Analysis Department, The People's Bank of China (<http://www.pbc.gov.cn/diaochatongjisi/116219/index.html>)
- 図 3 消費者物価指数：China, National Bureau of Statistics, *National Data (Monthly)* (<http://data.stats.gov.cn/english/easyquery.htm?cn=A01>)
- 図 4 China, General Administration of Customs, *Statistics / Monthly Bulletin* (<http://english.customs.gov.cn/statics/report/monthly.html>)

香港：

- 図 1, 図 4 Hong Kong, Census and Statistics Department, *Hong Kong Statistics* (<https://www.censtatd.gov.hk/hkstat/>)
- 図 2, 図 3 Hong Kong, Monetary Authority, *Monthly Statistical Bulletin* (<https://www.hkma.gov.hk/eng/market-data-and-statistics/monthly-statistical-bulletin>)

韓国：

- 図 1, 図 2, 図 3, 図 4 Korea, Bank of Korea (<https://ecos.bok.or.kr>)
- 図 3 株価指数：Yahoo (<https://finance.yahoo.com/quote/%5EKS11/history>)

台湾：

- 図 1 Republic of China, Directorate-General of Budget, Accounting and Statistics, *National Statistics* (<https://eng.stat.gov.tw/ct.asp?xItem=37408&CtNode=5347&mp=5>)
- 図 2 Republic of China, Central Bank of China (<https://www.cbc.gov.tw/en/cp-511-2069-A8BEF-2.html>)
- 図 3 消費者物価指数：Republic of China, Directorate-General of Budget, Accounting and Statistics, *National Statistics* (<https://statdb.dgbas.gov.tw/pxweb/dialog/statfile1L.asp>)；株価指数：Yahoo (<https://finance.yahoo.com/quote/%5ETWII/history>)；為替レート指数：Republic of China, Central Bank of China (<https://www.cbc.gov.tw/en/cp-480-58819-C8475-2.html>)
- 図 4 Republic of China, Customs Administration, Ministry of Finance, *CPT Single Window, Statistical Database Query* (<https://portal.sw.nat.gov.tw/APGA/GA30E>)

インドネシア：

- 図 1, 図 4 Indonesia, Statistics Indonesia (<https://www.bps.go.id>)
- 図 2 Indonesia, Bank Indonesia, *Indonesian Financial Statistics* (<https://www.bi.go.id/en/statistik/ekonomi-keuangan/seki/Default.aspx>)
- 図 3 株価指数：Yahoo (<https://finance.yahoo.com/quote/%5EJKSE/history>)；消費者物価指数：Indonesia, Statistics Indonesia (<https://www.bps.go.id/subject/3/inflasi.html>)；為替レート：Indonesia, Bank Indonesia (<https://www.bi.go.id/en/statistik/informasi-kurs>)

マレーシア：

- 図 1 Bank Negara Malaysia, *National Summary Data Page for Malaysia* (<https://www.bnm.gov.my/national-summary-data-page-for-malaysia>)
- 図 2, 図 3 Bank Negara Malaysia, *Monthly Highlights and Statistics, various issues* (<https://www.bnm.gov.my/rates-statistics>)
- 図 2 国内債権：International Monetary Fund, *International Financial Statistics* (<https://data.imf.org/ifs>)
- 図 3 株価指数：Bloomberg (<https://www.bloomberg.co.jp/quote/FBMKLCI:IND>)
- 図 4 Malaysia, Department of Statistics, *Malaysia External Trade Statistics* (<https://metsonline.dosm.gov.my/>)

フィリピン：

- 図1 Philippines, Bangko Sentral ng Pilipinas, *Statistics – Real Sector Account* (<https://www.bsp.gov.ph/SitePages/Statistics/RealSectorAccounts.aspx>)
- 図2 Philippines, Bangko Sentral ng Pilipinas, *Financial System Accounts* (<https://www.bsp.gov.ph/SitePages/Statistics/Financial%20System%20Accounts.aspx?TabId=3>)
- 図3 消費者物価指数：Philippines, Bangko Sentral ng Pilipinas, *Statistics – Prices* (<https://www.bsp.gov.ph/SitePages/Statistics/Prices.aspx?TabId=1>)；為替レート指数：Philippines, Bangko Sentral ng Pilipinas, *Statistics – External Account* (<https://www.bsp.gov.ph/SitePages/Statistics/External.aspx?TabId=9>)；株価指数：Yahoo Finance (<https://finance.yahoo.com/quote/PSEI.PS/history>)
- 図4 Philippines, Philippine Statistics Authority, *Foreign Trade* (<https://psa.gov.ph/statistics/foreign-trade>)

シンガポール：

- 図1 Singapore, Department of Statistics (<https://www.singstat.gov.sg/find-data/search-by-theme/economy/national-accounts>)
- 図2 Singapore, Monetary Authority of Singapore, *Monthly Statistical Bulletin* (<https://www.mas.gov.sg/Statistics/Monthly-Statistical-Bulletin/Money-and-Banking.aspx>)
- 図3 消費者物価指数：Singapore, Department of Statistic, (<https://www.singstat.gov.sg/find-data/search-by-theme/economy/prices-and-price-indices>)；株価指数：Singapore, Monetary Authority of Singapore, *Monthly Statistical Bulletin* (<https://www.mas.gov.sg/Statistics/Monthly-Statistical-Bulletin/Financial-Markets.aspx>)；為替レート指数：Singapore, Monetary Authority of Singapore, *Exchange Rates* (<https://www.mas.gov.sg/statistics/exchange-rates>)
- 図4 Singapore, Department of Statistic (<https://www.singstat.gov.sg/find-data/search-by-theme/trade-and-investment/merchandise-trade>)

タイ：

- 図1 Thailand, National Economic and Social Development Council (<https://www.nesdc.go.th/nesdb-en/main.php?filename=nationalaccount>)
- 図2 Thailand, Bank of Thailand (<https://www.bot.or.th/English/Statistics/EconomicAndFinancial/Pages/StatMFSSurvey.aspx>)
- 図3 消費者物価指数：Thailand, Ministry of Commerce, Bureau of Trade and Economic Indices (http://www.price.moc.go.th/en/home_en)；株価指数：Thailand, Bank of Thailand (<https://www.bot.or.th/English/Statistics/FinancialMarkets/CapitalMarket/Pages/StatCapitalMarket.aspx>)；為替レート指数：Thailand, Bank of Thailand (<https://www.bot.or.th/English/Statistics/FinancialMarkets/ExchangeRate/Pages/StatExchangeRate.aspx>)
- 図4 Thailand, Bank of Thailand (<https://www.bot.or.th/English/Statistics/EconomicAndFinancial/Pages/StatInternationalTrade.aspx>)

ベトナム：

- 図1 Vietnam, General Statistics Office, *Monthly report archive* (<https://www.gso.gov.vn/en/monthly-report/>)
- 図2 International Monetary Fund, *International Financial Statistics* (<https://data.imf.org/ifs>)
- 図3 2017年3月までの消費者物価指数および為替レート：International Monetary Fund, *International Financial Statistics, September 2017 CD-ROM*；それ以降の消費者物価指数および為替レート：Vietnam, General Statistics Office, *Consumer price index archive* (<https://www.gso.gov.vn/en/cpi/>)；株価指数：Fusion Media, *Investing.com* (<https://www.investing.com/indices/vn-historical-data>)
- 図4 2017年3月まで：International Monetary Fund, *Direction of Trade Statistics, September 2017 CD-ROM*；それ以降：Vietnam, General Statistics Office, Thematic Data, *Import-Export archive* (<https://www.gso.gov.vn/en/import-export/>)

インド：

- 図1, 図2, 図3, 図4 Reserve Bank of India, Database on India's Economy, Statistics tab (<https://dbie.rbi.org.in/DBIE/dbie.rbi?site=statistics>)
- 図1 2020年第4四半期：India, Ministry of Statistics and Programme Implementation (<http://www.mospi.gov.in>)
- 図3 株価指数：Yahoo (<https://finance.yahoo.com/quote/%5EBSESN/history>)
- 図4 日本との輸出入：International Monetary Fund, *Direction of Trade Statistics* (<https://data.imf.org/dot>)